

# 巻 頭 言

大阪医科薬科大学看護学部 社会医学分野 教授 土手友太郎  
(Tomotarou Dote)

いつ頃からか、本誌発刊年の前年度に定年退職の教授がいれば、巻頭言を依頼されるようになったようです。本誌は第16巻となりますが、私は創刊号に関わらせていただいた初代編集委員長でしたので、この機会をいただけたことで、当時を振り返り、創刊にまつわるエピソードを皆様にお伝えできることを喜ばしく思っています。委員は真継和子准教授、小林道太郎講師、西頭知子助教でした。4人とも雑誌の創刊は未経験でしたが、みんな自由に創作できるという新鮮な楽しさも大いに経験できたのではないかと思います。しかし翌年3月の初刊に向け、投稿依頼まで数カ月までに、委員会規程からはじまり、国会図書館など関連機関への申請手続き、冊子体の文字、サイズ、配置などの形式や雑誌の分類などの内容のすべてにわたり、決定せねばなりませんでした。例えば、雑誌の種類名としての“原著”という分類においても、学問分野で異なる見解や文化があることを初めて知りました。他の投稿種別においても投稿者と査読者に認識の相違が生じることがあるため、その定義を本誌ではどうするのかなどを、裁量権を与えられている分、責任も大いに感じておりました。一方、新しい名称と表装に関しては、林優子初代学部長からリクエストをいただきました。まず名称では、「研究」という語句を途中に入れ、その重要性を強調したい、さらに年1回発行される学部発行の雑誌は～紀要とすることが一般的だが、あえて斬新なイメージを表現すべく、～雑誌にしてほしいとのことでした。ちなみに『大阪医科大学医学会雑誌』は大阪医科薬科大学医学会が編纂しています。次に表装については、新学部が創設され、末永く繁栄して欲しいという願いを込めて“誕生”と“発展”をイメージできるデザインを盛り込むよう指示されました。その旨を業者委託して、種々の案から、林先生と委員の合意で決まりました。ご覧のように、全体的に白地で、大阪医科大学の当時のスクールカラーであるブルーをベースにした横帯を表裏に配しております。白は、医療職の象徴であるとともに、本学部の未来の“伸びしろ”が、とても広いことを示しております。一方、青帯の模様として、いくつかの“波”や“泡”が描かれています。これらに関しては、“波”は海を暗示します。“泡”に関しては、ギリシャ神話における愛と美、豊穡を司る女神としてアフロディーテが有名ですが、“彼女は海の泡から誕生した”とされています。個人的な解釈かもしれませんが、数多くの未来の看護研究者の誕生を象徴しているのかもしれませんが。昨年は、看護学部15周年・看護学研究科10周年の祝賀会が催され、今年度は大阪医科薬科大学看護学部15周年・大学院看護学研究科10周年記念誌も発刊されます。これまでの本誌にご尽力いただいた皆様に厚く御礼申し上げますとともに、これからも末永く本誌の益々の充実により、本学部と看護学の発展に貢献できますことを祈念しております。

PS) 写真は林先生が選ばれた創学部記念品で、懐かしいOMCのロゴ入りと日付入りです。当時の関係者限定のレアものです。私にとって定年後も勉学しましょうという励ましと思い、大切にしております。

